

久山中便り

命の大切さを実感 防災講演会

久山中学校
令和7年11月25日発行
第56号

そんな、先生のお話を直接聞くことができ
る機会でした。

今回は、三年生の感想を紹介します。

・東日本大震災の話を聞いたことが、あまり
なくて、知らないところで同じ年の子がこん
なにつらい経験をしても今も生きていること
を知つて、自分ごととして考えることができ
ました。そして、私もたくましく生きていき
たいと思いました。

21日（金）に、宮城県から講師をお招きし
て防災講演会を開催しました。

この講演会は、PTAからの要請があり実現し
たものです。お招きした講師は、東日本大震
災の際、卒業式直後に津波に襲われ、学校が
全壊した中学校の当時の校長先生です。

22日（土）に町の道徳講演会でもお話しさ
れます。その前に、中学生を対象にして講
演していただけないかと相談したところ、快
くお引き受けいただきました。

実は、この講師の先生とは、以前からの知
り合いで、震災後に、講師の先生の学校を訪
問させていただいたり、被災地を案内しても
らつたりしたことあります。

特に、先生の著書「たくましく生きよ。」は、
被災した時の様子、生存確認の難しさ、何も
ないところから学習へ向かう努力、そして、
生徒たちのたくましく成長する姿などが描か
れています。

きたいです。

・私は「心の被災」
という言葉が心に
残りました。被災
者の気持ちを全て
わかることはでき
ませんが、自分た
ちにできることを
少しでも知つてい
きたいです。

・私は、被災した
姉弟の話を聞いて、
自分もその子達の
ような立場だと、とても辛いと思いました。
そして、辛いことを出さないお姉ちゃんはす
ごいと思いました。想像もつかない話で、す
べて共感できるわけではないけど知ることは
できると思ったので、被災者の話をもつとき
たいとおもいました。



次日の日、町の講演会には、おうちの方に「是
非、聞きに行ってみて」と勧められて、いらつ
しやつた保護者の方もあつたようです。
その話を聞いて、講師の先生は、「とてもあ
りがたい。よく伝わつて、いたと思うと嬉しく
なります。」と話されていました。

災害は、いつ訪れるかわかりません。だか
らこそ、備えと訓練が求められます。

29日（土）は、町の避難訓練です。多くの
中学生とその保護者の皆さんが参加されるこ
とを願っています。